

よりよい家庭生活を営むために

～男女共同参画社会の実現をめざして
中学生のわたしたちにできること～

中学校技術・家庭科（家庭分野）



1

Q：家庭の仕事（家事）には どんな仕事がありますか？

食事の支度 食事の片づけ 掃除
お風呂洗い 洗濯 アイロンかけ
買い物 ゴミ出し
その他 ペットの世話、布団敷き、水やり
弟妹の世話、洗濯物たたみ など

2

松山市の中学生の意識調査結果から

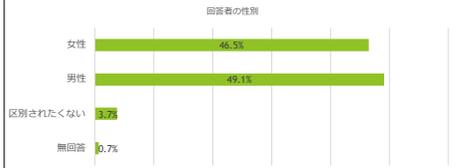
対象：松山市立中学校の2・3年生
実施時期 平成31年3月

2年生	231名 (51.0%)
3年生	223名 (49.0%)
計	454名 (100.0%)

3

松山市の中学生の意識調査結果から

対象：松山市立中学校の2・3年生
実施時期 平成31年3月



女性	46.5%
男性	49.1%
区別されたくない	3.7%
無回答	0.7%

4

Q：中学生がよくする家事は？

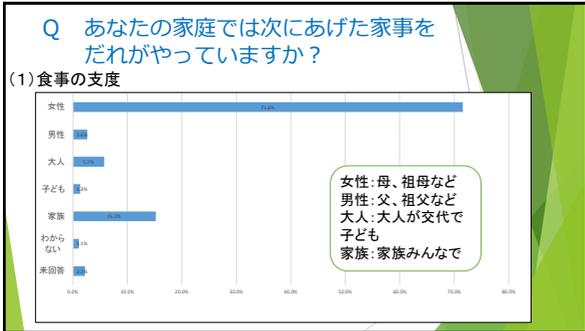
	家事	男子	女子
①	食事の片付け	45.3%	46.4%
②	食事の支度	24.7%	29.9%
③	ゴミ出し	24.2%	19.4%
④	お風呂洗い	21.1%	21.8%

5

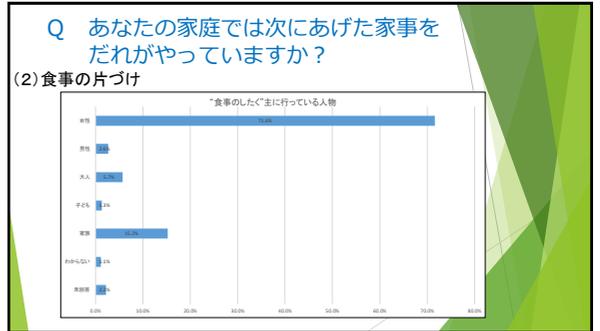
Q：中学生があまりしない家事は？

	家事	男子	女子
①	アイロンかけ	5.4%	13.3%
②	洗濯	9.4%	18.0%
③	買い物	13.0%	18.5%
④	掃除	13.9%	25.1%

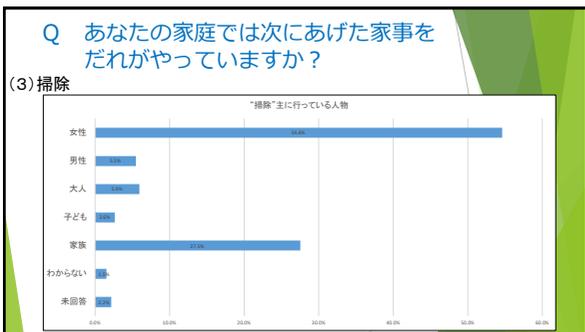
6



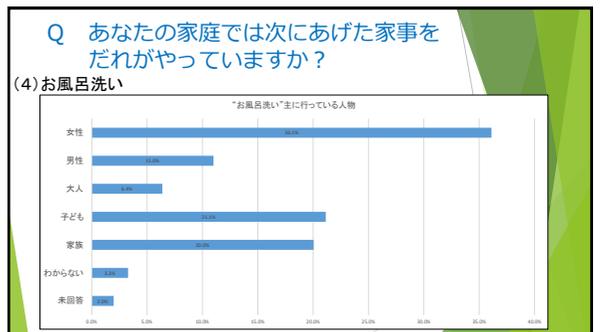
7



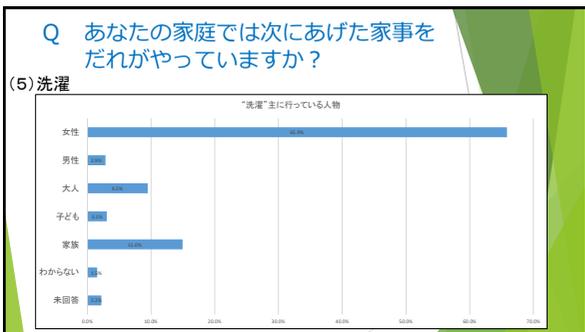
8



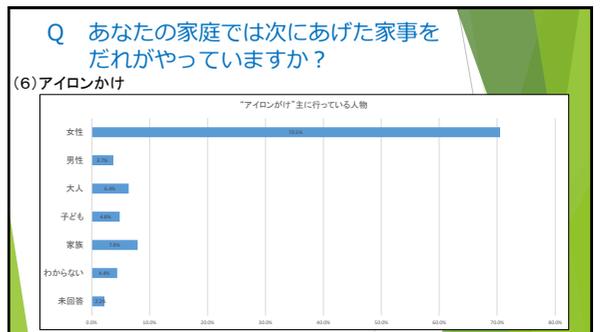
9



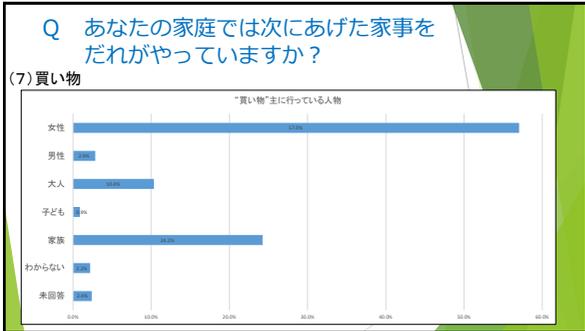
10



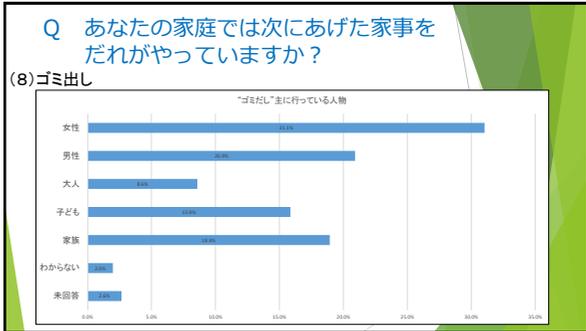
11



12



13



14

分かったこと・考えたこと

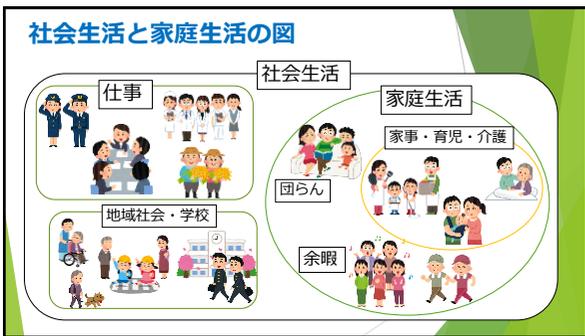
- ▶ 食事の支度、アイロンがけは、70%以上女性がやっている。
- ▶ 女性の次に多く家事をやっているのは、家族や子どもである。
- ▶ 男性はあまりやっていない。
- ▶ 共働き夫婦が80%以上を占めているので、やはり女性の負担が大きい。

15

松山市民の声（アンケートより）

- ・子どもは欲しいが、職場内の事情もあり、産休や育休が十分に取れるか不安だ。(20歳代女性)
- ・子どもが体調を崩して欠勤、早退などをしても嫌な顔をされない、短時間勤務のできる職場が増えればと思う。(30歳代女性)
- ・女性が働きやすくなっても、仕事以外のやることは減らないので毎日疲れる。のびのび仕事だけ頑張る男性がうらやましい。(30歳代女性)

16



17

仕事とは

会社勤め 公務員 自営業 サービス業（商売）
 正規雇用 パートタイム アルバイト
 経営 取締役役員 社員

家族・家庭生活のために収入を得る

18

家事・育児とは

掃除 洗濯 炊事(料理) 洗い物 買い物 ゴミ出し
庭の手入れ ペットの世話 植物の世話 回覧板
近所づきあい

授乳 おむつ替え 検診 遊び 着替え 入浴 送り迎え
しつけ ママ友との交流 弁当作り 園の仕事

**家族・家庭生活のために
収入(報酬)はない**

19

Q: 男女共同参画社会ってどういう社会?

男女区別なく、各自の個性や能力が尊重され、それを生かして社会生活または家庭生活を営むことができる社会

20

Q: なぜ、今男女共同参画?

A: 社会背景として

少子高齢社会 共働き夫婦の増加 待機児童の増加
格差社会 児童虐待 育児放棄 DV

A: 法律の制定

男女雇用機会均等法
育児・介護休業法

21

昔の日本の家庭や社会のあり様は

「男は仕事、女は家庭」
固定的な性別役割分担意識
家父長制度
父兄
男社会

22

現在の日本社会は

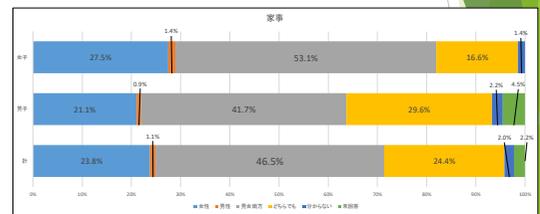
女性の社会進出
夫婦別姓
女性の管理職登用

23

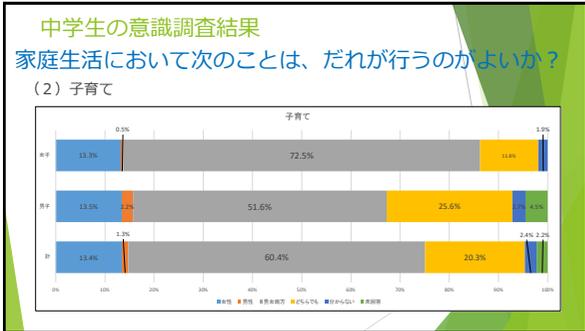
中学生の意識調査結果

家庭生活において次のことは、だれが行うのがよいか?

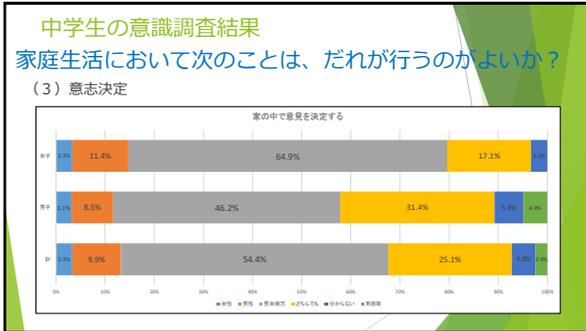
(1) 家事



24



25



26

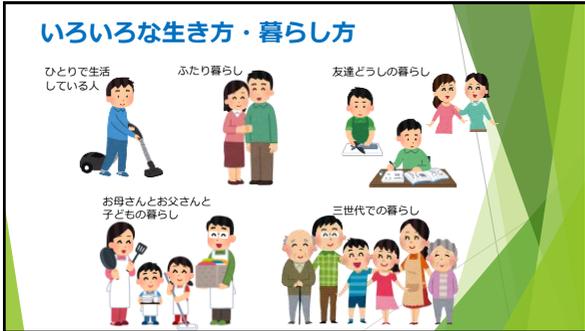
分かったこと・考えたこと

- 中学生の多くは、家事・子育て・意思決定を男女で協力して行うのが良いと思っている。
- 特に子育てについては、70%以上の女子が男女で協力するのが良いと思っている。

27

20年後(33歳)の自分は、どのような家庭生活を送りたいか。

28

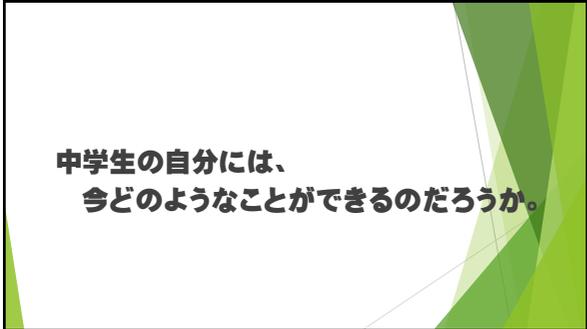


29

キーワード

主婦と主夫 イクメン カジメン
 共働き夫婦 専業主婦 専業主夫
 フルタイムとパートタイム
 正規雇用とアルバイト

30



**中学生の自分には、
今のようなことができるのだろうか。**